

切実な要求の改善を求めて

9/15

「乗務員勤務」団体交渉開催!

ダイヤ改正の度に「重くなる行路」

「乗務時間の短縮」と「要員増」が必要だ!

組合

【 40条予備の取扱いについて 】

会社

- ・ 施行規則26条に基づき「一定期間待機の状態」を求めている。
- ・ 職場の実態は「年休要員」となっており、アルファベット予備すら指定されていない。

- ・ 必要な要員は配置している認識である。
- ・ 最低限の予備は確保している。
- ・ アンバランスがあることは承知している。年間を通じての要員数である。

組合

【 労働時間について 】

会社

- ・ 難しい乗務員勤務であるならば、誰もがわかりやすく出勤から退勤まで休息時間を除いた時間を全て労働時間とするのは組合の考えである。
- ・ 職場の実態では、
 - ①乗務の合間でタブレットやパソコンで作業をしている。
 - ②アルコール検査の出勤確認での実施や寝室のリネンなど、「労働時間なのかのあいまいさ」がある。現場では疑問をもった乗務員もいて、事前の説明が不足してはいなかったか?
- ・ タブレットや携帯電話等の携帯品が増えており、準備時間を見直す時期ではないのかを求める。

- ・ 労働時間管理は厳正に行っている。
 - ①業務を命じた時間は労働時間として取り扱っている。
 - ②アルコール検査の時間は準備時間として扱っている。リネン交換は、乗務員が安心感を持って睡眠をとれるように毎日交換するように変更した。携帯品については、準備時間内で作業ができるものとして認識している。変更する際に、ていねいな説明がなかったと受け止められるならば、ご意見は受け止めた。

組合

【 在宅休養時間の確保について 】

会社

- ・ 拘束時間以上の時間を確保すること。

- ・ 列車ダイヤが基本で、制限はされるが極力確保していきたい。

組合

【 一勤務の制限について 】

会社

- ・ 泊勤務の2日目は、起床後6時間以内を求める。
- ・ 稠密線区の拘束時間の短縮を求める。

- ・ 乗務員勤務の特殊性は認識しており、できる範囲で改善はしてきている。
- ・ 効率化と相いれない部分があるが議論していきたい。

組合

【 行先地の(食事・睡眠時間)について 】

会社

- ・稠密線区での朝食事時間が30分から35分と5分改善されたが朝食時間ではなく睡眠時間につけた行路があり、改善の実感はない。
- ・泊勤務の睡眠時間は、6時間以上を確保することを求める。特に女性乗務員は1時間前ぐらいから起床しているのが実態である。

- ・組合から指摘された「朝食事時間の5分を睡眠時間につけている」とのことだが、制度上問題はないが食事時間は分けるように各支社に伝えていく。
- ・効率的な運用の下で制限があるが、極力確保している。女性乗務員の実態は認識している。

組合

【 乗務時間の制限について 】

会社

- ・現行制度では運転士のみ制限があるものの(車掌は明文化されていないが運転士と同等)、「制限」という概念はない。乗務労働の緊張感・連続性という特殊性から「制限」を検討するべきではないか。

- ・主張としては受け止めるが、一律に制限を設ければ、「非効率的な行路になるのではないかと考えられるのではないかと」

組合

【 設備改善について 】

会社

- ・社員の職場環境改善のための「45億円」の実施状況を求める。
- ・女性乗務員の設備の拡充を求める。(女性乗務員の設備がなく勤務操配しているのが実態)

- ・社員のバックヤードの整備を進めてきたが、新型コロナウイルスの影響で遅れている。
- ・女性乗務員の実態は把握している。優先順位をつけて整備を進めている。

組合

【 手当について 】

会社

- ・乗務員手当の改善(①端数処理30分未満の切り捨て、②休日勤務での「乗務員手当の併給」)を求める。
- ・行先地手当の廃止に伴い一律の「支社別勤務手当」を検討することを求める。

- ①については、システム上の考えはあるが会社の決めであるのでご理解いただきたい。
- ②手当全体のバランスを考え、どこにスポットを当てるかが課題である。

組合

【 短時間行路について 】

会社

- ・短時間行路については、前から「時間単位の年休」を求めてきたが、「欠在」といったイメージダウンとならない措置を検討するべきだ。
- ・自宅や職場近くに保育所がなければ、朝ラッシュに対応する短時間行路に乗務できない。

- ・「時間単位の年休」との声は承知しているが、全体のバランスを見ている。
- ・育児・介護と仕事の両面にスポットを当て、現状に甘んじることなく、様々なツールを用意して進めていきたい。

「新しい乗務員勤務制度」は1992年から28年間、抜本的な見直しはされていない。策定当時の社会環境から大きく変化しており、

1万1000人の乗務員の切実な要求に応じて
女性乗務員も働きやすい職場をめざそう!